

京都府改訂版レッドリスト 2025

(陸産貝類・淡水産貝類・その他淡水産無脊椎動物・海産無脊椎動物・ 地形・地質・地域生態系)

令和 8 年 3 月 31 日

総 合 政 策 環 境 部

自 然 環 境 保 全 課

京都府では、府内における絶滅のおそれのある野生生物をとりまく状況の変化をふまえ、分野ごとに順次調査を実施し、レッドリスト※の改訂を進めています。

この度、「陸産貝類」、「淡水産貝類」、「その他淡水産無脊椎動物」、「地形」、「地質」、「地域生態系」の 6 つの分類群について、以下のとおり、レッドリストを改訂しました。また、「海産無脊椎動物」を新たに設けました。

※レッドリスト・・・絶滅のおそれのある野生生物種をとりまとめたリスト

1 改訂の概要

カテゴリー	陸産貝類			淡水産貝類		
	今回 (2025)	前回 (2015)	増減等	今回 (2025)	前回 (2015)	増減等
絶滅種 (府内で絶滅した種)	0 種	0 種	ランクアップ 12 種	5 種	5 種	ランクアップ 1 種
絶滅寸前種 (絶滅の危機に瀕している種)	6 種	4 種	ランクダウン 0 種	9 種	9 種	ランクダウン 1 種
絶滅危惧種 (絶滅の危険が増大している種)	19 種	8 種	新規 21 種	8 種	5 種	新規 5 種
準絶滅危惧種 (存続基盤が脆弱な種)	13 種	16 種	〔うち新規発見〕 10 種	4 種	4 種	〔うち新規発見〕 1 種
要注目種 (動向を注目、留意すべき種)	4 種	16 種	リスト外 1 種	0 種	2 種	リスト外 1 種
情報不足種 (情報不足な種)	22 種		種名変更等 8 種	3 種		種名変更等 1 種
			要注目種から 情報不足種へ 7 種			要注目種から 情報不足種へ 2 種
合計	64 種	44 種		29 種	25 種	

特徴

○陸産貝類では、シカの増加によると推測される森林の下層植生の減少に伴い、主要な生息環境である林床（森林の地表）の乾燥化が認められ、多くの種をランクアップさせる要因となった。

○淡水産貝類では、外来種の影響や分類の見直しなどにより、新たに 5 種を追加した。

	その他淡水産無脊椎動物			海産無脊椎動物		
カテゴリー	今回 (2025)	前回 (2015)	増減等	今回 (2025)	前回 (2015)	増減等
絶滅種 (府内で絶滅した種)	1 種	0 種	ランクアップ 0 種	0 種	-種	ランクアップ -種
絶滅寸前種 (絶滅の危機に瀕している種)	0 種	0 種	ランクダウン 0 種	0 種	-種	ランクダウン -種
絶滅危惧種 (絶滅の危険が増大している種)	1 種	1 種	新規 8 種	3 種	-種	新規 -種
準絶滅危惧種 (存続基盤が脆弱な種)	2 種	2 種	〔うち新規発見〕 6 種	14 種	-種	〔うち新規発見〕 種
要注目種 (動向を注目、留意すべき種)	5 種	3 種	リスト外 0 種	4 種	-種	リスト外 -種
情報不足種 (情報不足な種)	5 種		種名変更等 0 種 要注目種から 情報不足種へ 1 種	16 種		種名変更等 -種 要注目種から 情報不足種へ -種
合計	14 種	6 種		37 種	-種	

特徴

- その他淡水産無脊椎動物では、今回の調査で新たに生息が確認された 6 種を含め、新たに 8 種を追加した。このうち 3 種は、海と川を回遊する種であり、環境のつながりが重要であることを示している。
- 海産無脊椎動物では、今回初めて、海岸や浅い海の底にすむ貝類や甲殻類などを対象に調査を行い、貝類 20 種、甲殻類 13 種、ゴカイ類 2 種、その他 2 種を選定した。
- ※無脊椎動物とは・・・哺乳類や両生類、魚類のような脊椎動物に対し、背骨を持たない動物を指し、貝類、甲殻類、環形動物、ゴカイ類などが含まれる。

	地形		
カテゴリー	今回 (2025)	前回 (2015)	増減等
消滅 (現存しない地形)	5 件	5 件	ランクアップ 1 件
消滅危惧 (緊急に保護を必要とする地形)	15 件	14 件	ランクダウン 0 件
要注意 (消滅が危惧される地形)	36 件	37 件	新規 0 件
要継続保護 (保護を続けるべき地形)	33 件	33 件	〔うち新規発見〕 0 件
			リスト外 0 件
			名称変更等 0 件
合計	89 件	89 件	

特徴

- 地形では、周辺農地の宅地開発による土地利用の変化があり、1 件がランクアップした。

	地質		
カテゴリー	今回 (2025)	前回 (2015)	増減等
消滅 (現存しない地質)	8 件	6 件	ランクアップ 10 件 ランクダウン 0 件 新規 16 件 [うち新規発見 13 件] リスト外 1 件
消滅寸前 (破壊されつつある地質)	54 件	52 件	
消滅危惧 (消滅が危惧される地質)	32 件	28 件	
要注意 (期待される研究指針が指摘される地質)	83 件	76 件	
合計	177 件	162 件	

特徴

○地質では、風化や侵食等の影響により、少しずつ失われつつある傾向が見られ、10 件がランクアップした。また、研究の進展により新たに価値を見出された 13 件を含め、新たに 16 件を追加した。

	地域生態系		
カテゴリー	今回 (2025)	前回 (2015)	増減等
要特別対策 (緊急に特別な対策が必要)	6 件	6 件	ランクアップ 3 件 ランクダウン 6 件 新規 24 件 リスト外 33 件 地点名変更 13 件 群落名等変更 42 件
要保全対策 (保全の対策が必要)	13 件	18 件	
管理維持 (管理を維持することが必要)	134 件	138 件	
合計	153 件	162 件	

特徴

○地域生態系では、府内には、アカガシなどからなる照葉樹林（常緑の広葉樹林）、冷温帯のブナ林、日本海側に広く分布する天然のスギ林など、貴重な自然の森林が残されている。しかし、これらの森林においても、シカによる食害の影響で、林床のチマキザサや草花が見られなくなっている。

2 今回の改訂で注目される種

●陸産貝類

キョウトギセル（キセルガイ科）

[前回]絶滅危惧種 ⇒ [今回]絶滅寸前種

山地の森林の林床に生息するが、生息場所が限られており、個体数も多くない。近年は、シカによる食害で森林の下草が失われ、生息環境の悪化が懸念される。



撮影者：五十野 悠

オウミケマイマイ（ナンバンマイマイ科）

[前回]目録外 ⇒ [今回]絶滅危惧種（新規）

今回の調査で初めて確認されたが、過去の調査では、近似種に誤って同定されていた可能性も考えられる。確認されたのは一個体の死殻（貝殻のみ）だが、状態も比較的良好であることから、生きた個体が周辺に生息しているものと推測される。



撮影者：五十野 悠

●淡水産貝類

ナカセコカワニナ（カワニナ科）

[前回]絶滅寸前種 ⇒ [今回]絶滅危惧種

近年、分布域が拡大し、個体数も増加傾向にあることから、絶滅危惧種にランクダウンした。



撮影者：近藤 高貴

●その他淡水 産無脊椎動物

ミナミテナガエビ（テナガエビ科）

[前回]目録外 ⇒ [今回]要注目種（新規）

近年、分布の北限が北へ広がっており、府内では、2025年に木津川の上流域で初確認された。海と川を回遊する種であり、河口堰などの構造物による影響を受けやすい。



撮影者：岩崎 敬二

ヒメヌマエビ（ヌマエビ科）

[前回]目録外 ⇒ [今回]要注目種（新規）

近年、若狭湾に流れ込む河川で生息が確認された。主に川の下流から河口の汽水域に分布し、河川改修や外来種の侵入などの影響を受けやすい。



撮影者：丸山 智朗

●海産無脊椎 動物

イボウミニナ（軟体動物門腹足綱ウミニナ科）

[今回]絶滅危惧種

太平洋側では干潟に、日本海側では海岸近くの砂や泥の海底に生息しているが、全国的に個体数が大きく減少している。府内では、阿蘇海と久美浜湾でのみ確認されている。



撮影者：岩崎 敬二

クボミテッポウエビ（節足動物門軟甲綱テッポウエビ科）

[今回] 情報不足種

日本海沿岸では記録が少なく、府内では舞鶴湾と久美浜湾でのみ確認されている。特に久美浜湾では、2020年に初めて確認された後、継続的な調査が行われているが、その後は確認されておらず、個体数は少ないと考えられる。



撮影者：へんみ 由美

●地形

浜新田（自然堤防）

[前回] 要注意 ⇒ [今回] 消滅危惧

浜新田では、自然に形成された堤防の上に、さらに人工的に土を盛った「盛土集落」が作られてきた。しかし、2023年秋の時点で、周辺農地の宅地開発による土地利用変化で、盛土集落の形態が失われつつある。



引用：（平野の開発：近畿を中心として（古今書院）

●地質

旧園鋳山の園石（鋳物）

[前回] 消滅寸前 ⇒ [今回] 消滅寸前

相楽郡和束町園は、京都府内の地名がついた日本新産鋳物（園石）の最初の発見地である。1963年に水産単斜ヒューム石のマグネシウムをマンガンで置換した組成の新鋳物であることが報告された。



撮影者：きじ みちお
貴治 康夫

伊根町ベースサージ堆積物（堆積物）

[前回] 目録外 ⇒ [今回] 要注意（新規）

伊根町津母の道路沿いに見られる露頭（地層や岩石が地表に直接あらわれている部分）で、約1500万年前、日本海が拡大していた時期の激しい火山活動を示している。水と関わる噴火によってできた「火山豆石」が密集した層を含む。



撮影者：こたき あつお
小滝 篤夫

天ヶ瀬のデュープレックス（構造）

[前回] 目録外 ⇒ [今回] 消滅危惧（新規）

宇治川为天ヶ瀬ダムの直下に露出する砂岩・泥岩に見られる地質構造で、海溝付近で地層が押し重なってできた過程を知る手がかりとなる。ダム放水路のすぐ下流に位置し、流水による浸食が懸念される。



撮影者：くすのき としお
楠 利夫

●地域
生態系

ブナ・イヌブナ・アカガシ群落（城山（岩戸山）/福知山市）

[前回] 目録外 ⇒ [今回] 管理維持（新規）

福知山市の岩戸山では、標高 100～400m にかけて、常緑広葉樹林から落葉広葉樹林までが連続的に分布している。ブナやイヌブナ、アカガシなどが混在し、自然度の非常に高い森林である。1982 年度以降、詳細な調査が行われていなかったため、今回新たに評価された。



撮影者：高原 ひかる

アカガシ群落（如意ヶ岳尾根周辺/京都市）

[前回] 目録外 ⇒ [今回] 管理維持（新規）

京都市左京区の如意ヶ岳周辺では、250 株以上のアカガシが分布し、直径 1～2m の巨木が多数含まれている。過去に伐採を受けた後、萌芽（切り株から出た芽）が成長して大木になったものが多く、都市近郊にありながら、貴重な森林景観を保つ群落である。



撮影者：高原 ひかる

スギ群落（上宮津杉山・宇野が岳/宮津市・舞鶴市）

[前回] 管理維持 ⇒ [今回] 管理維持

この地域には、幹の直径が 1～2m を超えるスギの巨木が広く分布する天然林がある。天然のスギ林は、氷河期にも若狭湾沿岸に残り、その後日本海側に広がったが、約千年前から人間活動の活発化により大きく減少している。本地域の天然スギ林は、このような歴史的観点から大変貴重な森林である。



撮影者：高原 ひかる

京都府改訂版レッドリスト2025

＜陸産貝類 64 種＞

陸産貝類については、今回の改訂より、ランクが上がった種が12種、新規に掲載された種が11種、新規に発見された種が10種、分類の細分化等により種名を変更した種が8種、京都府カテゴリーの見直しにより要注目種から情報不足種へ移行した種が7種、リスト外に移行した種が1種であった。

凡例

- △： アップリスト種
 - ▽： ダウンリスト種
 - ： 新規掲載種
 - ◎： 新規発見種
 - ☆： 種名変更など
 - ： リスト外に移行した種
 - ◇： 要注目種から情報不足種へ
- } 新規

絶滅寸前種（6 種）

科名	種名
カワザンショウガイ科	ホラアナゴマオカチグサ近似種☆
イツマデガイ科	ニクイロシブキツボ
キセルガイ科	キョウトギセル△、カスガコギセル、ヒロクチコギセル
ナンバンマイマイ科	ココロマイマイ△

絶滅危惧種（19 種）

科	種名
アズキガイ科	アズキガイ
クビキレガイ科	ヤマトクビキレガイ◎
カワザンショウガイ科	ヘソカドガイ△、オオウスイロヘソカドガイ◎
オカミミガイ科	ハマシイノミガイ△
オカモノアラガイ科	ナガオカモノアラガイ
キセルガイモドキ科	クリイロキセルガイモドキ、フトキセルガイモドキ△
スナガイ科	ナタネキバサナギガイ△
キセルガイ科	シリオレトノサマギセル△、ホソヒメギセル△、オオギセル△
シタラ科	カサネシタラ△☆
ナンバンマイマイ科	クチマガリマイマイ、オウミケマイマイ◎、ヒラヒダリマキマイマイ(ミヤマヒダリマキマイマイ)☆、トサビロウドマイマイ近似種☆、コンタカコベソマイマイ△、コベソマイマイ△

準絶滅危惧種（13 種）

科	種名
ゴマオカタニシ科	ゴマオカタニシ
ホソアシヒダナメクジ科	イボイボナメクジ◎
キセルガイモドキ科	キセルガイモドキ
キセルガイ科	エルベリギセル○、コンボウギセル◎
オオコウラナメクジ科	オオコウラナメクジ
ノコウラナメクジ科	ヤマコウラナメクジ
ナンバンマイマイ科	コウベマイマイ、ギュリキマイマイ、ツルガマイマイ、イブキクロイワマイマイ、ケハダビロウドマイマイ、ヤマタカマイマイ

要注目種（4種）

科	種名
ヤマタニシ科	ミヤコムシオイ
ナンバンマイマイ科	ナミマイマイ、ニシキマイマイ、マルニッポンマイマイ

情報不足種（22種）

科	種名
ヤマタニシ科	ヤマクルマガイ◇
ゴマガイ科	コベルトゴマガイ○、オオウエゴマガイ○、ヒダゴマガイ◎
カワザンショウガイ科	クリイロカワザンショウ属の一種◎
ミジンサナギガイ科	ナガナタネガイ○
スナガイ科	キバサナギガイ○
キセルガイ科	オオギセル属の一種（またはオクガタギセル類似種）◇☆
シタラ科	ハクサンベッコウ○、キヌツヤベッコウ○、キョウトキビ◇、キョウトシタラ◇☆、ウメムラシタラ○☆、タカキビ○、セツツキビ◎
ベッコウマイマイ科	ミヤコベッコウ◇、ヒラベッコウ○
ナンバンマイマイ科	ミヤコオトメマイマイ◇、ヒルゲンドルフマイマイ◎、コオオベソマイマイ◇、エチゼンビロウドマイマイ◎、ビロウドマイマイ○☆

リスト外に移行した種（1種）

科	種名
キセルガイ科	ヒメコギセル■

＜淡水産貝類 29 種＞

淡水産貝類については、今回の改訂より、ランクが上がった種が1種、ランクが下がった種が1種、新規に掲載された種が4種、新規に発見された種が1種、分類の細分化等により種名を変更した種が1種、京都府カテゴリーの見直しにより要注目種から情報不足種へ移行した種が2種、リスト外に移行した種が1種であった。

凡例

- △： アップリスト種
 - ▽： ダウンリスト種
 - ： 新規掲載種
 - ◎： 新規発見種
 - ☆： 種名変更など
 - ： リスト外に移行した種
 - ◇： 要注目種から情報不足種へ
- } 新規

絶滅種（5種）

科	種名
イシガイ科	オトコタテボシガイ
タニシ科	ナガタニシ
モノアラガイ科	オウミガイ
ヒラマキガイ科	カワネジガイ、ヒダリマキモノアラガイ

絶滅寸前種（9種）

科	種名
イシガイ科	カラスガイ○、イケチョウガイ、オグラヌマガイ
カワシンジュガイ科	カワシンジュガイ
シジミ科	セタシジミ
カワニナ科	タテヒダカワニナ、ヤマトカワニナ
エゾマメタニシ科	マメタニシ
ヒラマキガイ科	カドヒラマキガイ

絶滅危惧種（8種）

科	種名
イシガイ科	オバエボシガイ、ニセマツカサガイ、カタハガイ
カワニナ科	ハベカワニナ○、クロダカワニナ、ナカセコカワニナ▽
モノアラガイ科	モノアラガイ△
ヒラマキガイ科	カワコザラ○

準絶滅危惧種（4種）

科	種名
イシガイ科	メンカラスガイ○、マツカサガイ広域分布種☆
タニシ科	マルタニシ、オオタニシ

情報不足種（3種）

科	種名
ヌマツボ科	サガノミジンツボ◇
エゾマメタニシ科	ヒメマルマメタニシ◇
ヒラマキガイ科	クルマヒラマキ◎

リスト外に移行した種（1種）

科	種名
シジミ科	マシジミ(台湾ンシジミの日本系統群) ■

<その他淡水産無脊椎動物 14 種>

その他淡水産無脊椎については、今回の改訂より、新規に掲載された種が2種、新規に発見された種が6種、京都府カテゴリーの見直しにより要注目種から情報不足種に移行した種が1種であった。

凡例

- △： アップリスト種
 - ▽： ダウンリスト種
 - ： 新規掲載種
 - ◎： 新規発見種
 - ☆： 種名変更など
 - ： リスト外に移行した種
 - ◇： 要注目種から情報不足種へ
- } 新規

絶滅種（1種）

科	種名
オオウズムシ科	キョウトウズムシ◎

絶滅危惧種（1種）

科	種名
ヌマエビ科	ヌマエビ

準絶滅危惧種（2種）

科	種名
ヒルド科	ナリタヨコエビ、チスイビル

要注目種（5種）

科	種名
ヌマエビ科	ミゾレヌマエビ○、ミナミヌマエビ、ヒメヌマエビ◎
テナガエビ科	ミナミテナガエビ◎
イワガニ科	モクズガニ

情報不足種（5種）

科	種名
メクラヨコエビ科	キョウトメクラヨコエビ◎
ミズムシ科	ナガミズムシ◎
ヌマエビ科	トゲナシヌマエビ◎
テナガエビ科	スジエビ○
ヒメテンコケムシ科	カンテンコケムシ◇

<海産無脊椎動物 37 種>

海産無脊椎動物については、今回の改訂より新たにリストを追加した分類群である。

凡例

- △： アップリスト種
- ▽： ダウンリスト種
- ： 新規掲載種
- ◎： 新規発見種
- ☆： 種名変更など
- ： リスト外に移行した種
- ◇： 要注目種から情報不足種へ

新規

絶滅危惧種（3 種）

科	種名
ウロコガイ科(二枚貝類)	ニッポンマメアゲマキ
オオノガイ科(二枚貝類)	オオノガイ
ウミニナ科(巻貝類)	イボウミニナ

準絶滅危惧種（14 種）

科	種名
ハボウキ科(二枚貝類)	リシケタイラギ
バカガイ科(二枚貝類)	ミルクイ
ユキスズメ科(巻貝類)	ミヤコドリ
ウミニナ科(巻貝類)	ホソウミニナ、ウミニナ
キバウミニナ科(巻貝類)	カワアイ
イソマイマイ科(巻貝類)	シラギク
ツバサゴカイ科(ゴカイ類)	ムギワラムシ
ヤドカリ科(甲殻類)	テナガツノヤドカリ
コブシガニ科(甲殻類)	マメコブシガニ
モクズガニ科(甲殻類)	ヒメアカイソガニ、マメアカイソガニ、台湾ヒライソモドキ
ムツハアリアケガニ科(甲殻類)	アリアケモドキ

要注目種（4 種）

科	種名
マルスダレガイ科(二枚貝類)	ハマグリ
オニノツノガイ科(巻貝類)	コゲツノブエ
イワオウギガニ科(甲殻類)	イボイワオウギガニ
モクズガニ科(甲殻類)	オオヒライソガニ

情報不足種（16 種）

科	種名
ツキガイ科(二枚貝類)	イセシラガイ
チリハギ科(二枚貝類)	アリアケケボリ、ツルマルケボリ
ニッコウガイ科(二枚貝類)	サビシラトリ
ニオガイ科(二枚貝類)	ウミタケ
キバウミニナ科(巻貝類)	ヘナタリ

ワカウラツボ科(巻貝類)	カワグチツボ
タクミナ科(巻貝類)	タクミナ
ツバサゴカイ科(ゴカイ類)	ツバサゴカイ
テッポウエビ科(甲殻類)	クボミテッポウエビ
アナジャコ科(甲殻類)	ヨコヤアナジャコ
スナモグリ科(甲殻類)	ハルマンスナモグリ、ニホンスナモグリ
モクズガニ科(甲殻類)	トリウミアカイソモドキ
イカリナマコ科(ナマコ類)	トゲイカリナマコ
ナメクジウオ科(頭索類)	ヒガシナメクジウオ

<地形 89 件>

地形については、今回の改訂より、ランクが上がった地形が 1 件あった。

凡例

- △： アップリスト種
 - ▽： ダウンリスト種
 - ： 新規掲載種
 - ◎： 新規発見種
 - ☆： 種名変更など
 - ： リスト外に移行した種
 - ◇： 要注目種から情報不足種へ
- } 新規

消滅（5 件）

類型	名称
砂嘴	松ヶ崎
断層崖	殿田断層(世木林)
アースハンモック	平安神宮地下 AT 層
遊水池	巨椋池
先行谷	宇治川峡谷

消滅危惧（15 件）

類型	名称
地震断層	山田断層崖、郷村断層
地すべり地	上世屋地すべり
河岸段丘	竹野川河岸段丘
砂丘	久美浜砂丘
洪積台地	長田野台地
自然堤防	由良川自然堤防
砂州・干潟	由良川河口
溺れ谷	舞鶴湾
谷中分水界	由良川と胡麻川、静原川
洪積丘陵	宇治丘陵
自然堤防	浜新田△
河川争奪	山田川による河川争奪
丘陵	京阪奈丘陵

要注意（36 件）

類型	名称
残丘	甲山(兜山)
波食台	夕日ヶ浦・五色浜
海岸段丘	久美浜湾周辺、丹後半島北岸(丹後松島)
海食崖	奈良海岸
潟湖	阿蘇海、久美浜湾、離湖
砂丘	掛津砂丘
砂州	天橋立、小天橋
砂浜	琴引浜

波食台	城島
高層湿原	大フケ湿原
第三紀火山	青葉山
火砕丘	宝山(田倉山)
柱状節理	夜久野高原(大油子)玄武岩柱状節理
小起伏地形	大江山連山(赤岩山～杉山～鍋塚)
峡谷	二瀬川溪谷(宮川)
環流丘陵	綾部市弓削地区、丸山
横ずれ谷	三峠断層崖、花折断層崖
断層角盆地	神吉盆地
残丘地形	長老ヶ岳
鍾乳洞	質志鍾乳洞
断層崖	亀岡断層崖、小野断層崖、木津川断層崖
断層谷	花折断層(高野川)
谷中分水界	紙屋川上流
河岸段丘	井手の河岸段丘
砂堆	木津川の荒洲
天井川	渋川、不動川(天井川)
峡谷	夢絃峡

要継続保護 (33 件)

類型	名称
孤立峰	依遅ヶ尾山
柱状節理	立岩
滝	金引の滝、味土野大滝、布引滝、今福の滝、琴滝、空也滝、菩提滝、音羽ノ滝、滝又ノ滝
穿入蛇行	宇川穿入蛇行
海食崖	経ヶ岬、かまや海岸
離れ岩	屏風岩
海食洞	穴文殊
残丘地形	弥仙山
孤島	冠島・沓島
溪谷・滝及び滝壺	瑠璃溪
先行谷	保津峡谷
高層湿原	八丁平
膨隆丘	吉田山
堰止め湖	深泥池
小起伏山地	天王山
河川合流点	桂川・宇治川・木津川三川合流域
滝・滝壺	龍王の滝、不動の滝

隆起準平原	童仙房
奇岩	百丈石、笠置の岩壁
地すべり地	切山の地すべり地
ポットホール	木津川ポットホール
峡谷	布目川溪谷

<地質 177 件>

地質については、今回の改訂により、ランクが上がった地質が 10 件、新規に掲載された地質が 3 件、新規に発見された地質が 13 件、リスト外に移行した地質が 1 件だった。

凡例

- △： アップリスト種
 - ▽： ダウンリスト種
 - ： 新規掲載種
 - ◎： 新規発見種
 - ☆： 種名変更など
 - ： リスト外に移行した種
 - ◇： 要注目種から情報不足種へ
- } 新規

消滅（8 件）

分類	名称
堆積岩	杉谷の含腕足類石灰岩△
	京見峠の層状チャートの褶曲
堆積物	伏見区のブリュンヌ／松山境界
化石	犬甘野のシュードフズリナ△
	深草のトウヨウゾウ
	深草のメタセコイヤ
	芦見谷の六射珊瑚
構造	傾斜不整合

消滅寸前（54 件）

分類	名称
鉱物	神野の玉髄(そろばん玉石)
	大路のフェルグソン石
	大路のトルトベイト石
	大路のパイロクスフェロ石
	大路のバストネス石
	河辺の河辺石・モナズ石、チタン鉄鉱
	大江町の含ニッケルブルース石
	旧河守鉱山の黄銅鉱 磁硫鉄鉱
	旧河守鉱山のキューバ鉱
	旧仏性寺鉱山の輝水鉛鉱
	旧富国鉱山の輝蒼鉛鉱
	旧富国鉱山のコサラ鉱(含ビスマス)
	旧梅谷鉱山の硫カドミウム鉱
	旧梅谷鉱山のヘデンベルグ輝石
	旧鐘打鉱山のタングステン鉱脈
	旧鐘打鉱山のマンガンに富む鉄重石、硫砒鉄鉱
	旧若森鉱山の金
	旧船岡鉱山の孔雀石、プロシャン銅鉱、水垂鉛銅鉱、轟石
	旧玉岩鉱山のパイロクスマンジャイト、ガノフィル石、チンゼン斧石
	旧大谷鉱山の灰重石、錫石

	丹波のマンガン鉱床(京都府中部、宮島地域)
	大谷鉱山および行者山の錫・タンゲステン鉱脈
	丹波のマンガン鉱床(京都府中部、四谷地域)
	丹波のマンガン鉱床(京都府中部由良川周辺地域)
	丹波のマンガン鉱床(京都府中部、宮島地域)
	丹波のマンガン鉱床(京都市東北部)
	如意ヶ岳岡崎山のスカルン鉱物
	旧足谷鉱山のブラウン鉱
	新大谷鉱山のヤコブス鉱、磁マンガン鉱
	丹波のマンガン鉱床(京都府中部、周山・弓削地域)
	笠取重晶石鉱床
	甘南備山の水晶
	玉川河床の銅鉱物、リンカイ石、電気石、セカニナ石
	旧園鉱山の園石
	法花寺野のバラ輝石、テフロかんらん石、木下石
堆積岩	舞鶴炭田
堆積物	深草の大阪層群
	醍醐の阿蘇—1 火山灰層
	西山丘陵の大阪層群
	旧横大路沼の堆積物
	平尾台の大阪層群と高位段丘
化石	黒部貝層
	天橋立の木の葉石△
	舞鶴層群のレピドリナ△
	志高のクラドフレビス
	舞鶴市栃尾のビカリヤ・ゲロイナ
	杉坂のグナトーダス
	出灰のワーゲノフィルム
	水子谷の腕足類、鮮虫類
	出灰のハロビア△
	灰方のゴルフクラブのシカ化石
	大原野上里植物遺体層
	宇治田原町のヤベイナ
構造	北白川の衝上断層

消滅危惧 (32 件)

分類	名称
鉱物	旧夜久野鉱山のコランダム(サファイア)
	旧夜久野鉱山のダイアスポア、葉ロウ石
	旧夜久野鉱山のデュモルティエ石

	施福寺のダトー石
	桜天神の桜石(堇青石仮像)
	畑野の晶洞鉱物△
	宇治田原の磁鉄鉱
	和束町の燐灰石
	和束丘陵の褐鉄鉱、鳴石
火成岩	灰屋町の花崗斑岩
変成岩	砂岩ホルンフェルス(将門岩)
堆積岩	三畳紀円礫岩
	保津峡壁岩のチャート
	竜ヶ石・石灰角礫岩
	周山の赤色頁岩
	綴喜層群
堆積物	五色浜の円礫岩層△
	大山 hpm-1 火山灰層
	大江町の加久藤火山灰層
	大福礫層・信楽礫層
化石	公庄のコスタトリア△
	ダヌビーデス
	ミネトリゴニア
	保津峡の三畳紀コノドント
	周山のモノチス
	周山の赤色頁岩とジュラ紀放散虫
	志津川のペルム紀コノドント
	喜撰山大橋のミシケラ
構造	志高不整合△
	夜久野中学断層△
	犬打峠のチャートの層裏痕
	天ヶ瀬のデュプレックス◎

要注意 (83 件)

分類	名称
鉱物	普甲峠の十字石
	普甲峠の藍晶石
	水晶浜の高温石英
	弥栄町堀越の束沸石
	等楽寺のモルデン沸石、トムソン沸石
	等楽寺の燐灰ウラン鉱
	等楽寺のコフィン石
	北白川の褐簾石

	双岡の石英日本式双晶、スコロド石、ホセ鉱
	撰原の紅柱石
岩石	竹野の給源火道
	経ヶ岬のデイサイト柱状節理
	屏風岩
	立岩
	兜山
	法貴地域の花崗岩質岩類
	西別院の高槻層砂岩
	観音峠の四射珊瑚とトリティシーテス
	三ノ谷の炭素質珪質頁岩
	灰屋川の千枚岩
	宇治志津川周辺の岩脈群
火成岩	夜久野玄武岩類
	瑠璃溪の流紋岩
	剣尾花崗岩
	生畑の花崗岩質岩体
	鞍馬周辺の石英閃緑岩
	芦生の枕状溶岩
	大広谷の角閃石ひん岩岩脈
堆積岩	舞鶴層群の多源礫岩
	岡田由里の化石土壌
	質志の砂質石灰岩
	五波谷の含放散虫珪質頁岩
	大原野の石灰岩礫岩
	保津峡の炭素質頁岩、砥石型珪質粘土岩
	保津峡の含放散虫珪質頁岩
	宇治川の亀石(酸性凝灰岩)
	杉谷の三畳紀石灰岩◎
	大森のペルム系下部チャート層◎
	岩倉川の三畳系赤色チャート層◎
堆積層	須知層
堆積物	大フケ湿原堆積物○
	溝谷層
	琴引浜の鳴砂
	箱石浜海岸段丘
	福知山層
	田倉山スコリア丘層
	水坂層
	白川扇状地の土石流堆積物

	旧巨椋池干拓地堆積物○
	井手火山灰層
	山城Ⅳ火山灰層
	水晶浜◎
	阿蘇海の堆積物◎
	舞鶴湾の堆積物◎
	伊根町ベースサージ堆積物◎
化石	与謝植物化石群
	木子の淡水魚化石
	伊根町の海生魚化石
	舞鶴層群のナンリンジェラ
	荒倉層のモノフィリテス
	バケベリア
	クラライア
	ミーコセラス
	夜久野町のビカリア
	羽合のアオカズラ層
	春日部のイディオグナトース
	南掛のパレンタクチニア
	質志のネオスパトース
	五波谷のミリフーサス
	高雄の三畳紀中世コノドント
	綴喜層群の貝化石○
	宇治市宇治、仏徳山—朝日山のペルム紀赤色チャート
	杉谷のゴンドレラ類◎
	大森のパラフォリククルス(シュードアルバイレラ)◎
	宝ヶ池のトリアソカンペ◎
	松ヶ崎のストリアトジャポノカプサ◎
	左大文字山のジュラ紀中世放散虫◎
構造	郷村断層
	志高層の漣痕(リップルマーク)
	菟原のペルム紀—三畳紀境界
	質志の不整合
	雲ヶ畑のフルートマーク
	灰屋川衝上断層

リスト外に移行（1件）

分類	名称
堆積物	丹波のマンガン鉱床(京都市東北部)■

＜地域生態系 153 件＞

地域生態系については、今回の改訂より、ランクが上がった地域生態系が 3 件、ランクが下がった地域生態系が 6 件、新規が 24 件、地点名を変更した地域生態系が 13 件、群落名等を変更した地域生態系が 42 件、リスト外に移行した地域生態系が 33 件であった。

凡例

- △： アップリスト種
- ▽： ダウンリスト種
- ◎： 新規
- ☆： 種名変更など
- ★： 群落名変更など
- ： リスト外に移行した種
- ◇： 要注目種から情報不足種へ

要特別対策（6 件）

群落	地点名
箱石海岸砂丘群落	箱石海岸付近
海岸砂丘群落	神崎浜東部
オニバス群落	中池, 国分☆★
八丁平湿原水生植物群落	八丁平湿原群落☆★
深泥池水生植物群落	深泥池★
ヨシ群落及び周縁帯植物群落	観月橋下流左岸の河川敷★

要保全対策（13 件）

群落	地点名
クロマツ群落	経ヶ岬先端部△、箱石海岸、天橋立の砂嘴上
シイ群落	若狭湾冠島
アラカシ・イチイガシ群落	笠原神社△
ブナ・イヌブナ・アカガシ群落	君尾山付近△★
ササ草原	大江山
ススキ群落	大江山★
シリブカガシ群落	保津峡右岸, トロッコ保津峡駅ー落合橋☆
モミ群落	醍醐寺
コナラ・アベマキ群落	深泥池東岸
シリブカガシ群落	幣羅坂神社★
オニバス群落	木幡池

管理維持（134 件）

群落	地点名
タブノキ群落	深田部神社★、間主神社★、東神崎海岸★、舞鶴湾内の蛇島★
シイ群落	青島、八幡神社、富持神社、枳殻神社、常立寺、八幡社、権現山◎、金剛院、大川神社、本行寺、海蔵寺境内、下福井、皇大神社境内、大本教神苑内、古岩神社、與能神社、安祥寺、円山公園、清水山▽☆、松尾大社の裏山、嵐山宮ノ前町、法然院▽、慈照寺▽、神護寺、勝持寺、観音寺、醍醐寺★、興聖寺・宇治上神社、水度神社、神殿神社、狩尾社、笠置山、加茂町当尾◎
シラカシ・タブノキ群落	妙見堂★

ブナ群落	世屋川源流ミョウガダニ、内山、高山竜神、高龍寺ヶ岳、太鼓山、鬼嶽稻荷神社☆★、頭巾山、八丁平湿原集水域▽☆、京都府立大学久多演習林周辺☆
ブナ・イヌブナ・アカガシ群落	城山(岩戸山)◎
ミズナラ群落	上世屋小字深谷
アカシデ・ブナ群落	味土野★
イヌシデ群落	成相寺、多祢寺山◎
クロマツ群落	白滝神社★
スギ群落	上宮津杉山・宇野が岳☆★
スギ・ヒノキ老齡人工林	成相寺、観音寺★、京都府立大学大原野演習林◎
シイ・タブノキ群落	高倉神社★
シラカシ群落	高倉神社
ツクバネガシ・ツブラジイ群落	篠田神社◎
ウラジログシ・モミ群落	八幡神社★
アカガシ群落	毛原大岩神社、城山(岩戸山)◎、如意ヶ岳尾根周辺◎
ウラジログシ群落	城山(岩戸山)☆★
サワグルミ群落	鬼嶽稻荷神社◎、八丁平湿原集水域クラガリ谷◎
ミズナラ・リョウブ群落	鬼が岳稻荷神社から頂上への道沿
ムクノキ群落	城山(岩戸山)★
イヌシデ・アカシデ群落	青葉山山頂付近★
アカシデ・クマシデ群落	三岳山東北 1Km★
モミ群落	見樹寺、君尾山中腹光明寺周辺、四谷越え◎、洞峠、長老が岳の北方、実光院▽、鞍馬山奥ノ院付近、百井、青滝寺、寂光院
由良川の水生群落	公庄付近
ブナ・スギ群落	京都大学芦生研究林内◎
アベマキ・コナラ群落	京都府立大学日吉演習林★
ツガ群落	古岩神社★、美山町◎、常照皇寺◎
モミ・ツガ群落	田歌
アカマツ群落	湯谷ヶ岳山麓、大吉山◎
スギ老齡人工林	金比羅神社★
ススキ群落	美山町★
イチイガシ群落	半木神社
アラカシ群落	保津峡駅周辺斜面☆、吉田山、若宮神社
クスノキ群落	桃山陵、石清水八幡宮◎
ミズメ群落	京都府立大学久多演習林周辺◎
トチノキ群落	八丁平湿原集水域オグロ谷◎
スギ・イヌブナ群落	八丁林道沿い★、片波川源流域林
スギ・ミズナラ群落	片波川源流域林
コナラ群落	金蔵寺★、修学院、広河原町、多々羅

クヌギ群落	金蔵寺◎、笠置山全域
ミズナラ・アカシデ群落	峰定寺★、大悲山★
クリ・ミズナラ群落	石仏峠から祖父谷峠への途中★、八丁平湿原周辺▽★
ヒメコマツ群落	常照皇寺◎
ヒメコマツ・ホンシャクナゲ群落	片波川源流域林★
モミ・ミズナラ林	井戸妹路谷
ツガ・ヒメコマツ群落	大悲山山腹★
ケヤキ群落	嵐山国有林
スギ・ヒノキ植栽林	愛宕神社
サツキ群落	保津峡兩岸★
水生群落	岡崎公園付近★、鳥羽付近鴨川☆★、出町付近鴨川☆★
カキツバタ群落	大田神社★
カエデ属各種	八丁平湿原集水域◎
クスノキ・シイ群落	石清水八幡宮★
エノキ・ムクノキ群落	下鴨神社境内、石清水八幡宮◎、桂川・宇治川間導流堤◎
クヌギ・ケヤキ群落	笠置山
モウソウチク群落	石清水八幡宮
ツルヨシ・セイタカヨシ群落	泉大橋より山城大橋付近☆
宇治川の水生群落	宇治川の岡屋付近
アカシデ群落	鷲峰山金胎寺◎

リスト外（33 件）

群落	地点名
タブ群落	妙見堂■
ミズナラ群落	太鼓山■、成相寺■
シデ群落	金剛童子山の東南東■
ケヤキ群落	弥栄町■
アカマツ群落	大宮町谷内■
スギ・ヒノキ植栽群落	妙見堂■、富持神社■
ヒノキ植栽群落	八幡神社■、八幡社■
スギ植栽群落	常立寺■、見樹寺■
コナラ群落	養老山南南西 2km■、（コナラ群落）■、雲母坂中腹■、吉田山■
ブナ・スギ群落	佐々里峠一帯■
自然林コハウチワカエデ	多治神社■
芦生の自然群落	京都大学芦生研究林内■
洞谷の自然群落	洞部落から洞峠に至る溪谷■
カエデ群落	仏主高山■
アカシデ・イヌシデ群落	田歌■
自然林落葉広葉樹群落	片波川源流域林■

ミズナラ・リョウブ群落	別所町■
モミ群落	金蔵寺■
イヌシデ群落	大文字山■
コナラ・アベマキ群落	宝ヶ池南■
自然林落葉広葉樹林	大原野森林公園■
スギ・モミ自然林	寂光院■、多々羅■
アラカン群落	石清水八幡宮■
アカマツ植栽林	水度神社■
ハチク群落	石清水八幡宮■

陸産貝類変更点

アップリスト種(12種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
タマキビ目	カワザンショウガイ科	ヘソカドガイ	要注目種	絶滅危惧種	近年、生息地が追加されたが局限され、海岸の潮上帯の岩礁域に生息するため海岸開発等の影響が懸念される。
オカミガイ目	オカミガイ科	ハマシノミガイ	要注目種	絶滅危惧種	近年の調査で現認された。海岸の潮上帯に生息し、海岸開発等による影響が懸念される。日本海沿岸の生息地は局限される。
マイマイ目	キセルガイモドキ科	フトキセルガイモドキ	要注目種	絶滅危惧種	生息地が局限され、生息密度も低い。シカ食害による林床環境変化の影響も懸念される。
マイマイ目	スナガイ科	ナタネキバサナギガイ	要注目種	絶滅危惧種	過去の文献で既知の生息地から近年の調査で現認。水際のエコトーンに生息し、他所での生息環境の消失が懸念される。
マイマイ目	キセルガイ科	シリオレットノサマギセル	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	地理的分布域の東北限で、生息地が局限される。シカ食害による林床環境変化の影響が懸念される。
マイマイ目	キセルガイ科	ホソヒメギセル	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	生息地が局限され生息密度も低い。シカ食害による林床環境変化の影響も懸念される。地理的分布域の北限。
マイマイ目	キセルガイ科	キョウトギセル	絶滅危惧種	絶滅寸前種	生息地が局限され生息密度も低い。よく知られた生息地では激減。京都市左京区をタイプ産地とする。地理的分布域の西南限。
マイマイ目	キセルガイ科	オオギセル	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	生息地が比較的限定され生息密度も低く、一部生息地では激減。シカ食害による影響も懸念される。
マイマイ目	シタラ科	カサネシタラ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	既知の生息地がきわめて局限され、生息密度が低い。シカ食害による影響も懸念される。
マイマイ目	ナンバンマイマイ科	ココロマイマイ	絶滅危惧種	絶滅寸前種	地理的分布域が狭く、既知の生息地が局限され、生息密度も非常に低い。シカ食害による影響も懸念。京都をタイプ産地とする。
マイマイ目	ナンバンマイマイ科	コシタカコベソマイマイ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	生息地が局限され生息密度も低い。シカ食害による植生変化の影響も懸念される。地理的分布域の西南限。
マイマイ目	ナンバンマイマイ科	コベソマイマイ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	府内での生息地が局限され生息密度も低い。シカ食害による植生変化の影響も懸念される。

新規掲載種(11種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
ヤマタニシ目	ゴマガイ科	コベルトゴマガイ	リスト外	情報不足種	既知の生息地が局限され、微小種であり未発見の生息地の存在、近似種との混同の可能性もある。
ヤマタニシ目	ゴマガイ科	オオウエゴマガイ	リスト外	情報不足種	既知の生息地が局限され、微小種であり未発見の生息地の存在、近似種との混同の可能性もある。
マイマイ目	ミジンサナギガイ科	ナガナタネガイ	リスト外	情報不足種	既知の生息地がきわめて局限され、微小種であり確認に至らない生息地の存在も推定される。
マイマイ目	スナガイ科	キバサナギガイ	リスト外	情報不足種	既知の生息地がきわめて局限され、近年、生息が確認されておらず、詳細な調査が必要。
マイマイ目	キセルガイ科	エルベリギセル	リスト外	準絶滅危惧種	既知の生息地が限られ、シカ食害による林床環境変化の影響が懸念される。
マイマイ目	シタラ科	ハクサンベッコウ	リスト外	情報不足種	既知の生息地が局限され、微小種であり未発見の生息地の存在、近似種との混同の可能性もある。
マイマイ目	シタラ科	キヌツヤベッコウ	リスト外	情報不足種	既知の生息地が局限され、微小種であり未発見の生息地の存在、近似種との混同の可能性もある。
マイマイ目	シタラ科	ウメムラシタラ	リスト外	情報不足種	既知の生息地がきわめて局限され、微小種であり未発見の生息地の存在、近似種との混同の可能性もある。
マイマイ目	シタラ科	タカキビ	リスト外	情報不足種	既知の生息地がきわめて局限され、微小種であり未発見の生息地の存在も推定される。
マイマイ目	ベッコウマイマイ科	ヒラベッコウ	リスト外	情報不足種	近似種オオヒラベッコウと同種とする近年の見解に従ったが、過去の記録・標本等の精査が必要。

マイマイ目	ナンバンマイマイ科	ビロウドマイマイ	リスト外	情報不足種	近年、従来のヒメビロウドマイマイが本種またはエチゼンビロウドマイマイである可能性が示唆され、記録・標本の精査が必要。
-------	-----------	----------	------	-------	--

新規発見種(10種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
ヤマタニシ目	ゴマガイ科	ヒダゴマガイ		情報不足種	近年の文献により、過去の標本の一部が本種に同定されたため、過去の記録・標本等の精査が必要。
タマキビ目	クビキレガイ科	ヤマトクビキレガイ		絶滅危惧種	近年の調査で新たに発見された。海岸の潮上帯の打ち上げ物が堆積する場所に見られ、海岸開発等の影響が懸念される。
タマキビ目	カワザンショウガイ科	クリイロカワザンショウ属の一種		情報不足種	近年の調査で新たに発見されたが、種の正確な同定が必要。海岸の潮上帯岩礁域に生息、海岸開発等の影響が懸念される。
タマキビ目	カワザンショウガイ科	オオウスイロヘソカドガイ		絶滅危惧種	近年の調査で新たに発見された。海岸の潮上帯の岩礁域に生息するが生息地が局限され、海岸開発等の影響が懸念される。
アシヒダナメクジ目	ホソアシヒダナメクジ科	イボイボナメクジ		準絶滅危惧種	近年の文献・調査により新規追加。他のナメクジ類の幼体と誤認の可能性がある。未記載の複数種が含まれる可能性がある。
マイマイ目	キセルガイ科	コンボウギセル		準絶滅危惧種	過去の不確実な記録はあったが、近年の調査で現認。シカ被害による林床の落葉枝層の乾燥化や激減の影響が懸念される。
マイマイ目	シタラ科	セツツキビ		情報不足種	微小種で、近年採集された個体の生殖腺の精査により、本種の特徴と一致する個体が確認された。類似種が多く精査が必要。
マイマイ目	ナンバンマイマイ科	ヒルゲンドルフマイマイ		情報不足種	生息地がかなり限定され、近似種チャイロオトメマイマイを含め殻形態の変異が大きい。
マイマイ目	ナンバンマイマイ科	オウミケマイマイ		絶滅危惧種	陸貝調査が複数回実施された生息地で近年、新たに新鮮な死殻を確認。府外の生息地でも生息地が離散的で生息密度が低い。
マイマイ目	ナンバンマイマイ科	エチゼンビロウドマイマイ		情報不足種	近年、従来のヒメビロウドマイマイが本種またはビロウドマイマイである可能性が示唆され、過去の記録・標本の精査が必要。

種名変更など(8種) ※重複あり

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
タマキビ目	カワザンショウガイ科	ホラアナゴマオカチグサ近似種	絶滅寸前種	絶滅寸前種	種名変更(旧:ホラアナゴマオカチグサ)
マイマイ目	キセルガイ科	オオギセル属の一種(またはオクガタギセ)	要注目種	情報不足種	種名変更(旧:トノサマガセル属の一種)
マイマイ目	シタラ科	キョウトシタラ	要注目種	情報不足種	種名変更(旧:キョウトシタラガイ)
マイマイ目	シタラ科	カサネシタラ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	種名変更(旧:カサネシタラガイ)
マイマイ目	シタラ科	ウメムラシタラ	リスト外	情報不足種	種名変更(旧:ウメムラシタラガイ)
マイマイ目	ナンバンマイマイ科	ヒラヒダリマキマイマイ(ミヤマヒダリマキマ)	絶滅危惧種	絶滅危惧種	種名変更(旧:ミヤマヒダリマキマイマイ)
マイマイ目	ナンバンマイマイ科	ビロウドマイマイ	リスト外	情報不足種	種名変更(旧:ヒメビロウドマイマイ)
マイマイ目	ナンバンマイマイ科	トサビロウドマイマイ近似種	絶滅危惧種	絶滅危惧種	種名変更(旧:トサビロウドマイマイ)

要注目種から情報不足種へ(7種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
ヤマタニシ目	ヤマタニシ科	ヤマクルマガイ	要注目種	情報不足種	既知の情報では生息地情報が「町」単位で詳細が不明で、情報の再確認と詳細な現地調査が必要。
マイマイ目	キセルガイ科	オオギセル属の一種(またはオクガタギセ)	要注目種	情報不足種	1個体の標本が確認されているのみで、情報不足。種の同定のためにも追加個体の確認が必要。
マイマイ目	シタラ科	キョウトキビ	要注目種	情報不足種	京都をタイプ産地とする。微小種であり、近似種との正確な同定が難しく、情報不足。
マイマイ目	シタラ科	キョウトシタラ	要注目種	情報不足種	京都をタイプ産地とする。微小種であり、近似種との正確な同定が難しく、情報不足。
マイマイ目	ベッコウマイマイ科	ミヤコベッコウ	要注目種	情報不足種	京都をタイプ産地とする。ベッコウマイマイ類の大型種で生息密度が極めて低く、情報不足。
マイマイ目	ナンバンマイマイ科	ミヤコオトメマイマイ	要注目種	情報不足種	京都市をタイプ産地とする。近似種が複数存在するうえ、殻形態の変異が大きいグループで、分類的な再検討が必要。

マイマイ目	ナンバンマイマイ科	コオオベソマイマイ	要注目種	情報不足種	京都をタイプ産地とする。殻形態の変異が大きく、分類的な再検討が必要。
-------	-----------	-----------	------	-------	------------------------------------

リスト外に移行した種(1種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
マイマイ目	キセルガイ科	ヒメコギセル	要注目種	目録外	環境省種の多様性調査の記録はあるが、近隣府県での分布状況等から、近似種ナミコギセルの誤同定の可能性が高い。

淡水産貝類変更点

アップリスト種(1種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
モノアラガイ目	モノアラガイ科	モノアラガイ	準絶滅危惧種	絶滅危惧種	外来種ハブタエモノアラガイに置き換わっている。

ダウンリスト種(1種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
オニツノガイ目	カワニナ科	ナカセコカワニナ	絶滅寸前種	絶滅危惧種	本種の分布域が拡大し、個体数が増加した。

新規掲載種(4種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
イシガイ目	イシガイ科	カラスガイ	リスト外	絶滅寸前種	従来の「カラスガイ」がカラスガイとメンカラスガイの2種に分けられて、本種の分布域が狭くなり、個体数も少ない。
オニツノガイ目	カワニナ科	ハベカワニナ	リスト外	絶滅危惧種	分布域が限定され、個体数も多くない。
モノアラガイ目	ヒラマキガイ科	カワコザラ	リスト外	絶滅危惧種	外来種メリケンコザラに置き換わっている。
イシガイ目	イシガイ科	メンカラスガイ	リスト外	準絶滅危惧種	従来の「カラスガイ」から分かれた種である。

新規発見種(1種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
モノアラガイ目	ヒラマキガイ科	クルマヒラマキ	目録外	情報不足種	精華町で新たに発見された。

種名変更など(1種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
イシガイ目	イシガイ科	マツカサガイ広域分布種	準絶滅危惧種	準絶滅危惧種	従来の「マツカサガイ」から分かれた未記載種である。

要注目種から情報不足種へ(2種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
エゾタマキビ目	ヌマツボ科	サガノミジンツボ	要注目種	情報不足種	カテゴリーが細分された。
エゾタマキビ目	エゾマメタニシ科	ヒメマルマメタニシ	要注目種	情報不足種	カテゴリーが細分された。

リスト外に移行した種(1種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
マルスダレガイ目	シジミ科	マシジミ(タイワンシジミの日本系統群)	絶滅危惧種	リスト外	江戸時代またはそれ以前に日本に移入された外来種タイワンシジミの1系統群である可能性が極めて高い。

その他淡水無脊椎動物変更点

新規掲載種(2種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
エビ目	ヌマエビ科	ミブレヌマエビ	リスト外	要注目種	日本海に面する河川の河口域で生息が確認されていたが汽水域の生息場が港湾開発や治水工事によって消失しやすい。
エビ目	テナガエビ科	スジエビ	リスト外	情報不足種	スジエビは河川湖沼の普通種だったが、近年近縁種のチュウゴクスジエビが大陸から侵入した結果、各地で種の入れ替わりを生じる恐れがあるため、分布の現状を精査する必要がある。

新規発見種(6種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
ヨコエビ目	メクラヨコエビ科	キョウトメクラヨコエビ	目録外	情報不足種	地下水や湧水の生息種の情報が不足している。井戸水や洞窟内の水たまりから記録されているが、現状では地下水や湧水の生息種の情報が不足しているため精査が必要である。
ワラジムシ目	ミズムシ科	ナガミズムシ	目録外	情報不足種	地下水や湧水の生息種の情報が不足している。井戸水や湧水から記録されているが、現状では地下水や湧水の生息種の情報が不足しているため精査が必要である。
エビ目	ヌマエビ科	ヒメヌマエビ	目録外	要注目種	今回日本海に面する河川野原川で新たに生息が確認された河川下流域～河口汽水域に分布するため、都市開発・河川改修・外来種の侵入などの影響を受けやすい。
エビ目	ヌマエビ科	トゲナシヌマエビ	目録外	情報不足種	今回日本海に面する河川野原川で新たに生息が確認されたが、個体数が少なく定着しているか不明のため、調査が必要。
エビ目	テナガエビ科	ミナミテナガエビ	目録外	要注目種	日本海側の分布北限が北上中、淀川水系木津川で生息が初めて確認された。河口堰などの横断構造物により連続性遮断の影響を受けやすい。
ウズムシ目	オオウズムシ科	キョウトウズムシ	目録外	絶滅種	1977年以降に記載された京都市内の模式産地の湧水が消失したことに加えて、鴨川水系並びに桂川水系の湧水において採集された記録がないため絶滅したと考えられる。ただし、今後の湧水の調査によって再発見される可能性は残されている。

要注目種から情報不足種へ(1種)

目名	科名	種名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
掩喉目	ヒメテンコケムシ科	カンテンコケムシ	要注目種	情報不足種	京都府内では1983～1985年の桂離宮の池での記録以降確認されていない。兵庫県ではビオトープ池など数か所で記録されており、京都でも見つかる可能性があるが、現状では調査機会が少なく現状の情報が不足している。このため、情報不足種として情報を集める対象とするのがよいと判断された。

地形変更点

アップリスト(1件)

類型	地域	名称	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
自然堤防	山城中部地域	浜新田	要注意	消滅危惧	

地質変更点

アップリスト(10件)

分類	名称	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
鉱物	畑野の晶洞鉱物	要注意	消滅危惧	乱採集のため晶洞鉱物がなくなりつつある。
堆積岩	杉谷の含腕足類石灰岩	消滅危惧	消滅	現地で石灰岩露頭を確認できない。
堆積物	五色浜の円礫岩層	要注意	消滅危惧	円礫岩が露出する海岸の露頭が崩落している。
化石	天橋立の木の葉石	要注意	消滅寸前	化石はほとんど発見できない。
化石	舞鶴層群のレピドリナ	要注意	消滅寸前	ダム近くの林道露頭は消滅し、他の露頭も崩落が著しい。
化石	公庄のコスタリア	要注意	消滅危惧	露頭の多くが失われ、かろうじて駐車場横に残っているだけである。
化石	犬甘野のシュードフズリナ	消滅危惧	消滅	露頭が消滅している。
化石	出灰のハロピア	要注意	消滅寸前	川沿いに石灰岩がわずかに見られるのみである。
構造	志高不整合	要注意	消滅危惧	民家の裏手の崖にあり、風化が進んでいる。
構造	夜久野中学断層	要注意	消滅危惧	中学校の露頭は消滅しているが、断層自身は存在している。

新規掲載(3件)

分類	名称	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
堆積物	大フケ湿原堆積物	リスト外	要注意	木本植生が成長しつつあり、湿原堆積物も見られなくなりつつある。
堆積物	旧巨椋池干拓地堆積物	リスト外	要注意	河川沿いで観察できる露頭の浸食が進んでいる。
化石	綴喜層群の貝化石	リスト外	要注意	名称変更(旧:貝化石)。

新規発見(13件)

分類	名称	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
堆積岩	杉谷の三畳紀石灰岩		要注意	消滅したペルム紀腕足類化石産地の近くだが、地質年代は三畳紀。
堆積岩	大森のペルム系下部チャート層		要注意	
堆積岩	岩倉川の三畳系赤色チャート層		要注意	岩倉川河床で浸食が進みつつある。
堆積物	水晶浜		要注意	鉱物としては2015年の目録にあり。
堆積物	阿蘇海の堆積物		要注意	富栄養化などの水質記録が保存された貴重な堆積物である。
堆積物	舞鶴湾の堆積物		要注意	外洋から内湾にかけて有機質になる現状堆積物の保全が必要。
堆積物	伊根町ベースサージ堆積物		要注意	
化石	杉谷のゴンドラ類		要注意	
化石	大森のパラフォリククルス(シュードアルバイレラ)		要注意	ペルム紀初頭の放散虫化石として世界で最も早く記載された。
化石	宝ヶ池のトリアソカンペ		要注意	
化石	松ヶ崎のストリアトジャポノカプサ		要注意	京都市内のジュラ紀放散虫化石として重要。
化石	左大文字山のジュラ紀中世放散虫		要注意	
構造	天ヶ瀬のデュプレックス		消滅危惧	ダム放水路の下流にあり、浸食されやすい状況にある。

リスト外に移行(1件)

分類	名称	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
鉱物	丹波のマンガン鉱床(京都市東北部)	消滅寸前	目録外	重複のため目録から削除。

地域生態系変更点

アップリスト(3件)

群落名	地点名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
クロマツ群落	経ヶ岬先端部	管理維持	要保全対策	かなり衰退している。
アラカシ・イチイガシ群落	笠原神社	管理維持	要保全対策	イチイガシ大木がモウソウチクの侵入によって衰退している。
ブナ・イヌブナ・アカガシ群落(アカガシ・ツクバネガシ・ウラジロガシ群落)	君尾山付近	管理維持	要保全対策	2015年:ブナ群落、イヌブナ群落は要保全対策。

ダウンリスト(6件)

群落名	地点名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
シイ群落	清水山	要保全対策	管理維持	地点名変更(旧:清水寺裏)。
シイ群落	法然院	要保全対策	管理維持	保全管理がなされている。
シイ群落	慈照寺	要保全対策	管理維持	
ブナ群落	八丁平湿原集水域	要保全対策	管理維持	保全管理がなされている。地点名変更(旧:八丁平)。
クリ・ミズナラ群落	八丁平湿原周辺	要保全対策	管理維持	保全管理がなされている。所在地変更(旧:都市左京区大平)、名称変更(旧:冷温帯落葉広葉樹林)。
モミ群落	実光院	要保全対策	管理維持	保全管理がなされている。

新規(24件)

群落名	地点名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
シイ群落	権現山		管理維持	
ツクバネガシ・ツブライジイ群落	篠田神社		管理維持	
アカガシ群落	城山(岩戸山)		管理維持	
サワグルミ群落	鬼嶽稲荷神社周辺		管理維持	
イヌシデ群落	多祢寺山		管理維持	
ブナ・イヌブナ・アカガシ群落	城山(岩戸山)		管理維持	
ブナ・スギ群落	京都大学芦生研究林内		管理維持	
モミ群落	四谷越え		管理維持	
ツガ群落	美山町		管理維持	
スギ・ヒノキ高齢人工林	京都府立大学大野演習林		管理維持	
アカガシ群落	如意ヶ岳尾根周辺		管理維持	
ミズメ群落	京都府立大学久多演習林周辺		管理維持	
サワグルミ群落	八丁平湿原集水域クラグリ谷		管理維持	
トチノキ群落	八丁平湿原集水域オグロ谷		管理維持	
クヌギ群落	金蔵寺		管理維持	
ヒメコマツ群落	常照皇寺		管理維持	
ツガ群落	常照皇寺		管理維持	
カエデ属各種	八丁平湿原集水域		管理維持	
クスノキ群落	石清水八幡宮		管理維持	
シイ群落	加茂町当尾		管理維持	
エノキ・ムクノキ群落	石清水八幡宮		管理維持	
エノキ・ムクノキ群落	桂川・宇治川間導流堤		管理維持	
アカマツ群落	大吉山		管理維持	
アカシデ群落	鷲峰山金胎寺		管理維持	

地点名変更(13件)

群落名	地点名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
スギ群落	上宮津杉山・宇野が岳	管理維持	管理維持	地点名変更(旧:上宮津)、所在地変更(旧:宮津市上宮津)。
ウラジロガシ群落	城山(岩戸山)	管理維持	管理維持	地点名変更(旧:城山)、群落名変更(旧:城山の自然群落ウラジロガシ)。

ブナ群落	鬼嶽稲荷神社周辺	管理維持	管理維持	地点名変更(旧:鬼嶽稲荷神社)、群落名変更(旧:ブナ・ミズナラ群落)、所在地変更(旧:福知山市大江町 鬼嶽稲荷神社)。
オニバス群落	中池、国分	要特別対策	要特別対策	地点名変更(旧:中池)、所在地変更(旧:亀岡市馬路町池尻)。
シイ群落	清水山	要保全対策	管理維持	地点名変更(旧:清水寺裏)。
アラカシ群落	保津峡駅周辺斜面	管理維持	管理維持	地点名変更(旧:保津峡)。
シリブカガシ群落	保津峡右岸、トロッコ保津峡駅-落合橋	要保全対策	要保全対策	地点名変更(旧:保津峡南西面斜面)。
ブナ群落	八丁平湿原集水域	要保全対策	管理維持	地点名変更(旧:八丁平)。
ブナ群落	京都府立大学久多演習林周辺	管理維持	管理維持	地点名変更(旧:府立大学演習林)。
八丁平湿原水生植物群落	八丁平湿原群落	要特別対策	要特別対策	地点名変更(旧:八丁平湿原)、群落名変更(旧:八丁平湿原群落)。
水生群落	鳥羽付近 鴨川	管理維持	管理維持	地点名変更(旧:鳥羽付近)、群落名変更(旧:鴨川の水生群落)。
水生群落	出町付近 鴨川	管理維持	管理維持	地点名変更(旧:出町付近)、群落名変更(旧:鴨川の水生群落)。
ツルヨシ・セイタカヨシ群落	泉大橋より山城大橋付近	管理維持	管理維持	地点名変更(旧:山城町泉大橋より山城大橋付近)。

群落名等変更(42件)

群落名	地点名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
タブノキ群落	深田部神社	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:タブ群落)。
タブノキ群落	間主神社	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:タブ群落)。
シラカシ・タブノキ群落	妙見堂	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:シラカシ群落)、旧タブ群落(妙見堂)と合併。
アカシデ・ブナ群落	味土野	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:アカシデーイヌシデ群落)、名称変更(旧:暖温帯落葉広葉樹林)、旧シデ群落(金剛童子山の東南東)と合併。
クロマツ群落	白滝神社	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:クロマツ自然群落)。
スギ群落	上宮津杉山・宇野が岳	管理維持	管理維持	地点名変更(旧:上宮津)、所在地変更(旧:宮津市上宮津)。
タブノキ群落	東神崎海岸	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:タブ群落)。
タブノキ群落	舞鶴湾内の蛇島	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:タブ群落)。
シイ・タブノキ群落	高倉神社	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:シイ・タブ群落)。
ウラジロガシ・モミ群落	八幡神社	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:シラカシ群落)。
ウラジロガシ群落	城山(岩戸山)	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:城山の自然群落ウラジロガシ)、地点名変更(旧:城山)。
ブナ群落	鬼嶽稲荷神社周辺	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:ブナ・ミズナラ群落)、地点名変更(旧:鬼嶽稲荷神社)、所在地変更(旧:福知山市大江町 鬼嶽稲荷神社)。
ブナ・イヌブナ・アカガシ群落	君尾山付近	管理維持	要保全対策	名称変更(旧:冷温帯下部常緑落葉混交林)。
ムクノキ群落	城山(岩戸山)	管理維持	管理維持	名称変更(旧:城山)。
イヌシデ・アカシデ群落	青葉山山頂付近	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:シデ群落)、名称変更(旧:暖温帯落葉広葉樹林)。
アカシデ・クマシデ群落	三岳山東北1Km	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:シデ群落)、名称変更(旧:暖温帯落葉広葉樹林)。
スギ・ヒノキ老齢人工林	観音寺	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:スギ・ヒノキ植栽群落)。
ススキ群落	大江山	要保全対策	要保全対策	名称変更(旧:ススキ草原)。
アベマキ・コナラ群落	京都府立大学日吉演習林	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:アベマキ群落)。
ツガ群落	古岩神社	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:自然林ツガ)。
スギ老齢人工林	金比羅神社	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:スギ植栽群落)。
ススキ群落	美山町	管理維持	管理維持	名称変更(旧:ススキ草原)。
オニバス群落	中池、国分	要特別対策	要特別対策	地点名変更(旧:中池)、所在地変更(旧:亀岡市馬路町池尻)。
シイ群落	醍醐寺	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:シイ・カシ群落)。
スギ・イヌブナ群落	八丁林道沿い	管理維持	管理維持	名称変更(旧:冷温帯落葉広葉樹林)。
コナラ群落	金蔵寺	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:自然林落葉広葉樹群落)、名称変更(旧:冷温帯落葉広葉樹林)。
ミズナラ・アカシデ群落	峰定寺	管理維持	管理維持	名称変更(旧:冷温帯落葉広葉樹林)。
ミズナラ・アカシデ群落	大悲山	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:クリ・ミズナラ群落)、名称変更(旧:冷温帯落葉広葉樹林)。
クリ・ミズナラ群落	石仏峠から祖父谷峠への途中	管理維持	管理維持	名称変更(旧:冷温帯落葉広葉樹林)。
クリ・ミズナラ群落	八丁平湿原周辺	要保全対策	管理維持	所在地変更(旧:都市左京区大平)、名称変更(旧:冷温帯落葉広葉樹林)。
ヒメコマツ・ホンシャクナゲ群落	片波川源流域林	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:ホンシャクナゲ・ヒメコマツ群落)。
ツガ・ヒメコマツ群落	大悲山山腹	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:ツガ・ゴウマツ群落)。
八丁平湿原水生植物群落	八丁平湿原群落	要特別対策	要特別対策	群落変更(旧:八丁平湿原群落)、地点名変更(旧:八丁平湿原)。
深泥池水生植物群落	深泥池	要特別対策	要特別対策	群落名変更(旧:深泥ヶ池水生植物群落)。
ヨシ群落及び周縁帯植物群落	観月橋下流左岸の河川敷	要特別対策	要特別対策	群落名変更(旧:金井戸のヨシ原及び周縁帯植物群落)。
サツキ群落	保津峡兩岸	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:保津峡のサツキ群落)。

水生群落	岡崎公園付近	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:疏水の水生群落)。
水生群落	鳥羽付近 鴨川	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:鴨川の水生群落)、地点名変更(旧:鳥羽付近)。
水生群落	出町付近 鴨川	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:鴨川の水生群落)、地点名変更(旧:出町付近)。
カキツバタ群落	大田神社	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:大田神社のカキツバタ群落)。
クスノキ・シイ群落	石清水八幡宮	管理維持	管理維持	群落名変更(旧:シイ群落)。
シリブカガシ群落	幣羅坂神社	要保全対策	要保全対策	群落名変更(旧:シリブカガシ林)。

リスト外に移行(33件)

群落名	地点名	京都府RL2015	京都府RL2025	備考
タブ群落	妙見堂	管理維持	リスト外	削除(シラカシ・タブノキ群落(妙見堂)へ統合)。
ミズナラ群落	太鼓山	管理維持	リスト外	削除(1979年の調査によるものであり、ナラ枯れ以降現状不明)。
ミズナラ群落	成相寺	管理維持	リスト外	削除(1988年の調査によるものであり、現在は位置が不明。ミズナラ1本であり、群落とは言えない)。
シデ群落	金剛童子山の東南東	管理維持	リスト外	削除(アカシデ・ブナ群落(味土野)に統合)。
ケヤキ群落	弥栄町	管理維持	リスト外	削除(調査年、位置、調査者不明)。
アカマツ群落	大宮町谷内	管理維持	リスト外	削除(1973年の調査によるものであり、現在は位置が不明)。
スギ・ヒノキ植栽群落	妙見堂	管理維持	リスト外	削除(人工林)。
スギ・ヒノキ植栽群落	富持神社	管理維持	リスト外	削除(人工林)。
ヒノキ植栽群落	八幡神社	管理維持	リスト外	削除(人工林)。
ヒノキ植栽群落	八幡社	管理維持	リスト外	削除(人工林)。
スギ植栽群落	常立寺	管理維持	リスト外	削除(人工林)。
コナラ群落	養老山南南西2Km	管理維持	リスト外	削除(1977年の調査によるものであり、現在は位置が不明)。
コナラ群落		管理維持	リスト外	削除(1979年の調査によるものであり、現在は位置が不明)。
スギ植栽群落	見樹寺	管理維持	リスト外	削除(人工林)。
ブナ・スギ群落	佐々里峠一帯	管理維持	リスト外	削除(ブナ・スギ群落(京都大学芦生研究林内)へ統合)。
自然林コハウチワカエデ	多治神社	管理維持	リスト外	削除(コハウチワカエデ林は伐採され、ほとんど残っていない)。
芦生の自然群落	京都大学芦生研究林内	管理維持	リスト外	削除(ブナ・スギ群落(京都大学芦生研究林内)へ統合)。
洞谷の自然群落	洞部落から洞峠に至る溪谷	管理維持	リスト外	削除(植生調査データがなく、モミ群落(洞峠)と重複)。
カエデ群落	仏主高山	管理維持	リスト外	削除(モミ群落であることを確認)。
アカシデ・イヌシデ群落	田歌	管理維持	リスト外	削除(1984年の調査によるものであり、小面積かつ現在は位置が不明)。
自然林落葉広葉樹群落	片波川源流域林	管理維持	リスト外	削除(スギ・イヌブナ群落(片波川源流域林)へ統合)。
ミズナラ・リョウブ群落	別所町	管理維持	リスト外	削除(1984年の調査によるものであり、現在は位置が不明かつミズナラ低木林)。
モミ群落	金蔵寺	管理維持	リスト外	削除(モミ群落とは言えない)。
イヌシデ群落	大文字山	管理維持	リスト外	削除(データなし)。
コナラ群落	雲母坂中腹	要保全対策	リスト外	削除(1973年頃の調査によるものであり、現在は位置が不明)。
コナラ群落	吉田山	管理維持	リスト外	削除(データなし)。
コナラ・アベマキ群落	宝ヶ池南	要保全対策	リスト外	削除(データなし)。
自然林落葉広葉樹林	大原野森林公園	要保全対策	リスト外	削除(データなし)。
スギ・モミ自然林	寂光院	管理維持	リスト外	削除(人工林)。
アラカシ群落	石清水八幡宮	管理維持	リスト外	削除(アラカシ群落はツブラジイ群落へ植生遷移)。
アカマツ群落	多々羅	管理維持	リスト外	削除(1982年の調査によるものであり、現在は位置が不明)。
アカマツ植栽林 アカマツ群落	水度神社	管理維持	リスト外	削除(広葉樹林に遷移。調査データがない)。
ハチク群落	石清水八幡宮	管理維持	リスト外	削除(平成11年植生図(八幡市教育委員会, 2005年)に記載なし)。